

(19)日本国特許庁 (J P)

(12) 公 開 特 許 公 報 (A)

(11)特許出願公開番号

特開平11-265189

(43)公開日 平成11年(1999) 9月28日

(51)Int.Cl. ⁸	識別記号	F I
G 1 0 K 15/04	3 0 2	G 1 0 K 15/04 3 0 2 D
G 0 9 G 5/00	5 1 0	G 0 9 G 5/00 5 1 0 B
		5 1 0 Q

審査請求 未請求 請求項の数5 O L (全 8 頁)

(21)出願番号 特願平10-67038

(22)出願日 平成10年(1998) 3月17日

(71)出願人 390004710

株式会社第一興商

東京都品川区北品川5丁目5番26号

(72)発明者 細田 真介

東京都品川区北品川5-5-26 株式会社
第一興商内

(72)発明者 山本 美賢

東京都品川区北品川5-5-26 株式会社
第一興商内

(72)発明者 橋 聡

東京都品川区北品川5-5-26 株式会社
第一興商内

(74)代理人 弁理士 一色 健輔 (外2名)

最終頁に続く

(54)【発明の名称】 演奏中に宣伝映像を合成表示するカラオケ装置

(57)【要約】

【課題】 カラオケ映像とうまく組み合わせて宣伝広告映像を表示する。

【解決手段】 各タイトルの宣伝映像番組には、その宣伝映像を前記カラオケ映像に組み合わせるべく特定された前記楽曲の識別子と、その組み合わせるタイミングを前記カラオケ伴奏音楽の進行時間軸上において指定する合成時機指定データと、同じ画面の描画エリアにおいてこの宣伝映像を当該カラオケ映像にどのように組み合わせるかを指定する合成態様指定データとが対応づけられている。演奏予約された楽曲の演奏時において、前記データベースを検索してその楽曲に対応づけられている宣伝映像番組を取り出し、この番組に対応づけられている前記合成時機指定データおよび前記合成態様指定データに従って前記カラオケ映像と当該宣伝映像とを組み合わせ合成して表示させる。

【歌唱中CM映像合成例】

(スクロール表示)

(a)



(b)



Best Available Copy

【特許請求の範囲】

【請求項1】 つぎの要件(1)～(3)を備えるカラオケ装置。

(1) 各楽曲のカラオケ伴奏音楽を音声出力するとともに適宜な背景映像に歌詞を合成したカラオケ映像を出力するための一群のカラオケデータが多数の楽曲分集約されている。

(2) 映像出力するための宣伝映像番組が多数のタイトル分データベース化されている。各タイトルの宣伝映像番組には、その宣伝映像を前記カラオケ映像に組み合わせるべく特定された前記楽曲の識別子と、その組み合わせるタイミングを前記カラオケ伴奏音楽の進行時間軸上において指定する合成時機指定データと、同じ画面の描画エリアにおいてこの宣伝映像を当該カラオケ映像にどのように組み合わせるかを指定する合成態様指定データとが対応づけられている。

(3) 演奏予約された楽曲の演奏時において、前記データベースを検索してその楽曲に対応づけられている宣伝映像番組を取り出し、この番組に対応づけられている前記合成時機指定データおよび前記合成態様指定データに従って前記カラオケ映像と当該宣伝映像とを組み合わせ合成して表示させる。

【請求項2】 請求項1記載のカラオケ装置であって、前記宣伝映像番組に対応づけられた前記合成態様指定データは組み合わせる前記カラオケ映像の縮小表示の処理形式を指定することを特徴とする。

【請求項3】 請求項2記載のカラオケ装置であって、前記宣伝映像番組には該当の楽曲の前記カラオケ映像に合成すべき時間帯を指定したデータが対応づけられていることを特徴とする。

【請求項4】 請求項2または3に記載のカラオケ装置であって、適宜な通信回線を通じて外部から前記各タイトルの前記宣伝映像番組の供給を随時受けて前記データベースを更新する。

【請求項5】 請求項2～4のいずれかに記載のカラオケ装置であって、前記カラオケ映像と組み合わせ表示すべく再生した回数を前記各タイトルの前記宣伝映像番組別に集計し、それを宣伝記録簿として管理しておき、外部のホスト装置などに通信で適宜報告することを特徴とする。

【発明の詳細な説明】

【0001】

【発明の属する技術分野】 この発明はカラオケ装置を宣伝広告媒体として活用する技術に関する。

【0002】

【従来の技術】 たとえば特開平8-272341号には、カラオケ装置に関連したつぎのような広告端末装置が開示されている。カラオケ楽曲は演歌・ポップス・アニメなどのジャンルという概念で分類されている。広告映像データもこのジャンルという概念で分類しておく。

カラオケ装置の方でたとえば「ポップス」ジャンルの楽曲が演奏されているときに、広告端末装置においても同じ「ポップス」ジャンルの広告映像データを選択して再生する。

【0003】 前記の従来技術では、カラオケ装置を現に利用している人達がみずから選択して演奏している楽曲のジャンル分類に基づいて、それと同一のジャンルに分類されている広告映像を適宜に流すだけである。例として説明されているジャンル分類は演歌・ポップス・アニメの3種類である。もちろんカラオケ楽曲のジャンル分類をより細かくすることも可能であるが、そのことを考慮しても、カラオケ利用者にできるだけ違和感や抵抗感の少ないであろう広告映像を選別して提示できるという程度の効果しか期待できない。

【0004】

【発明が解決しようとする課題】 ところで、音楽産業から生み出される宣伝広告情報には、たとえば、個々のアーティストのコンサートや新譜発売情報など多岐にわたる。あるアーティストのファンがカラオケを楽しむとき、そのアーティストの楽曲を自然と選択する。したがって、演奏される楽曲のアーティストに関連する宣伝広告の映像を流せば、カラオケ利用者にとって欲しい情報を知ることができるし、宣伝する側にとっても大きな宣伝効果を期待できる。

【0005】 さらに、カラオケ映像を利用した宣伝力を消費者向けにもっと生かすことができる。つまり、宣伝内容を楽曲に直接携わったアーティストやプロデューサーに限定するだけではもったいない。演奏中の楽曲に結びつけ宣伝して欲しい商品やサービスおよび企業イメージが音楽産業以外の様々な業種から要求される。このとき、演奏中に流れるカラオケ映像に割り込んで楽曲と直接関係のない宣伝映像が画面一杯に突然映し出されると、歌唱者の歌詞の読み取りができなくなるし、せっかくカラオケを楽しんでいる利用者の気分を害しかねない。

【0006】 この発明は前記のような観点にたってなされたもので、その目的は、カラオケ映像とうまく組み合わせて宣伝広告映像を表示できるカラオケ装置を提供することにある。

【0007】

【課題を解決するための手段】 この発明のカラオケ装置はつぎの要件(1)～(3)を備えている。

(1) 各楽曲のカラオケ伴奏音楽を音声出力するとともに適宜な背景映像に歌詞を合成したカラオケ映像を出力するための一群のカラオケデータが多数の楽曲分集約されている。

(2) 映像出力するための宣伝映像番組が多数のタイトル分データベース化されている。各タイトルの宣伝映像番組には、その宣伝映像を前記カラオケ映像に組み合わせるべく特定された前記楽曲の識別子と、その組み合わせる

せるタイミングを前記カラオケ伴奏音楽の進行時間軸上において指定する合成時機指定データと、同じ画面の描画エリアにおいてこの宣伝映像を当該カラオケ映像にどのように組み合わせるかを指定する合成態様指定データとが対応づけられている。

(3) 演奏予約された楽曲の演奏時において、前記データベースを検索してその楽曲に対応づけられている宣伝映像番組を取り出し、この番組に対応づけられている前記合成時機指定データおよび前記合成態様指定データに従って前記カラオケ映像と当該宣伝映像とを組み合わせ合成して表示させる。

【0008】前記宣伝映像番組に対応づけられた前記合成態様指定データは組み合わせる前記カラオケ映像の縮小表示の処理形式を指定することを特徴とする。

【0009】好ましくは、前記宣伝映像番組には該当の楽曲の前記カラオケ映像に合成すべき時間帯を指定したデータが対応づけられている。

【0010】また好ましくは、適宜な通信回線を通じて外部から前記各タイトルの前記宣伝映像番組の供給を随時受けて前記データベースを更新してもよい。

【0011】また、前記カラオケ映像と組み合わせる表示すべく再生した回数を前記各タイトルの前記宣伝映像番組別に集計し、それを宣伝記録簿として管理しておき、外部のホスト装置などに通信で適宜報告してもよい。

【0012】

【発明の実施の形態】====カラオケ装置の基本的な構成と動作====

この発明の一実施例によるカラオケ装置のシステム構成を図1に示している。この図はカラオケ装置1のハードウェア構成を中心にして表現している。多数のカラオケ装置1とホスト装置2とが電話回線3で結合されており、これらによりコンピュータ・ネットワークが構成されている。

【0013】カラオケ装置1の構成を中心に説明を進める。中央処理装置4はCPU・ROM・RAMを含んだコンピュータの中核であり、このカラオケ装置1を統括している。中央処理装置4はモデム5を介して電話回線3に接続されてホスト装置2と通信する。ホスト装置2からカラオケ装置1に配信されるカラオケデータの主体は、MIDI形式データなどで表現された伴奏音楽生成データと、伴奏と時間的に同期結合する歌詞描画データとである。カラオケデータは楽曲単位で楽曲IDをキーとして管理される。ホスト装置2から配信されてきた多数の楽曲のカラオケデータがハードディスク装置6に蓄積される。なお、ホスト装置2から配信される新しい楽曲のカラオケデータをハードディスク装置6に蓄積するのに加えて、古い楽曲のカラオケデータをビデオCD化して提供し、そのビデオCDをチェンジャ式ビデオCDプレーヤ17に装填してある。

【0014】カラオケ装置1の本体には表示器とキーボードを含むユーザインターフェース用の操作パネル7があり、またリモコン送信器8に対応したリモコン受信器80も付属している。操作パネル7やリモコン受信器80は操作制御部19を介して中央処理装置4に結合されており、カラオケ利用者は本体の操作パネル7またはリモコン送信器8により選曲などの各種操作入力を行い、その操作内容や操作入力に対する装置の応答情報が操作パネル7に表示される。

10 【0015】楽曲の再生は中央処理装置4の制御のもとでつぎの経路で行われる。指定された楽曲IDのカラオケデータをハードディスク装置6またはビデオCDプレーヤ17から読み出す。伴奏音楽生成データのMIDIデータが順次シンセサイザ9に入力されてオーディオ信号に変換され、ミキシングアンプ10を経てスピーカー11から出力される。ミキシングアンプ10ではマイク12からの歌唱音声信号がミキシングされる。

20 【0016】この音声出力と同期して、中央処理装置4は歌詞描画データを順次文字列に変換してビデオRAM13に書き込むとともに、歌詞文字列に曲の進行を示す色変えの処理を加える。ビデオRAM13に作成されたビットマップ画像データが映像制御部16により読み出されてビデオディスプレイ15に表示される。また以上のカラオケ演奏処理と並行して、ビデオディスプレイ15に歌詞の背景映像が表示される。その背景映像はビデオCDプレーヤ17から再生出力され、ビデオRAM13の歌詞画像とスーパーインポーズ合成されて映像出力される。

30 【0017】この実施例のカラオケ装置1はCSデジタル多チャンネル放送の受信機22を備えており、放送局20と通信衛星21による放送媒体から放送番組を受信して利用できる。映像と音声による通常番組を受信してビデオディスプレイ15とスピーカー11から出力できるだけでなく、データ放送番組を受信した所要のデータファイルをハードディスク装置6などに保存して利用できる。

40 【0018】====カラオケデータベース====図1のプレーヤ17に装填されている数枚のビデオCDおよびハードディスク装置6に合計1万数千曲のカラオケデータが存在し、その全体を中央処理装置4がカラオケデータベースとして管理している。1曲分のカラオケデータのデータ形式について説明する。前述したように、伴奏音楽生成データの主体はMIDI形式データであり、楽曲によってはADPCM符号化されたコーラスなどのデータが付属する。歌詞描画データには再生時に伴奏の進行に合わせるためのタイミング規定データが含まれる。これらがカラオケデータの本体であり、これにヘッダーが付いている。

50 【0019】ヘッダーには固有の楽曲IDがキーとして記入されている。曲名・アーティスト名(歌手名)・作曲

者・作詞者・ジャンルという既定の5項目の属性記入欄がヘッダーにあり、各欄に該当の属性データが記入される。属性記入欄はこの5項目に限られるのではなく、これ以外の属性を記入することができる。なお本明細書では楽曲IDも属性の1項目と見なす。

【0020】よく知られているように、ある楽曲のカラオケデータを再生するとき、伴奏音楽の冒頭部分で曲名やアーティスト名などの属性データがディスプレイに文字表示され、また歌詞表示の背景映像を選択するのにジャンルの属性データが利用される。さらに、カラオケデータ群の曲目検索処理に属性データが活用される。

【0021】前述の各楽曲の属性データは、カラオケソフトの制作段階で該当のカラオケデータのヘッダーに所定のデータ形式で記入する。前述の5項目の属性は、ほとんどの楽曲について事前に分かっている情報であり、これらの属性データを記入してあるカラオケデータをホスト装置2から各カラオケ装置1に配信する。なお、前記の5項目の属性以外にも配信前に分かっている属性データがあれば、それも事前に記入してホスト装置2から配信する。

【0022】====CMデータベース====ある内容のひとまとまりのCMの映像データが1つの番組として区分される。各番組を区別する識別名のことをCMタイトルと称し、その内容のことをCM番組と称する。CMデータは数十秒から数分程度の短い動画データであったり、数コマから数十コマ程度の静止画データであったりし、たとえばJPEGやMPEG形式で圧縮符号化されたデータである。

【0023】CM番組で映像表現される内容は、音楽産業から発信されるものでは、前述した例のように、個々のアーティストのコンサートの開催情報など文字情報を主体としたものや、新譜のビデオクリップなど音声情報が付帯するものである。これに加えてこの発明では、楽曲のタイトルや歌詞内容とは直接関係がなく、音楽産業以外の企業による宣伝映像番組をカラオケ映像に組み合わせる場合を取り上げる。

【0024】CM番組はホスト装置2からの依頼によりCSデジタル多チャンネル放送を通じて配信すれば日替わりの宣伝映像番組を表示できる（電話回線で配信しても良い）。CM番組の配信はたとえば1週間に1回おこない、その週に制作された最新のCM番組群をまとめて配信する。カラオケ装置1では配信されるCM番組群をハードディスク装置6に格納し、中央処理装置4がそれら全体をCM番組ベースとして集約して管理する。

【0025】1タイトルのCM番組のファイル形式の構造を図2に示している。個々のCM番組・ファイルはファイル名（CMタイトル）で区別される。CM番組の本体は各タイトルごとにデータ形式が異なる。各ファイルのヘッダー部分にはCM番組本体部分の形式や大きさが記入されている。またヘッダー部分には楽曲IDが記入

されており、このIDによって各楽曲のカラオケデータに付帯している楽曲属性データ中の楽曲IDに結びつけられる。

【0026】またヘッダー部分には、表示の時間帯を指定する欄があり、これによって各CM番組の再生表示の時間帯が制限される。さらにヘッダー部分には、有効期限を規定する欄もあり、CMタイトルによっては表示できる期限が制限される。

【0027】中央処理装置4におけるCM番組ベースの管理システムは、各CM番組・ファイルのヘッダー部分の所要項目をピックアップしてCM番組管理台帳を作成している。その管理台帳に基づいて、CM番組ベースの登録・更新・追加・削除・検索・取り出しといった操作を行う。また各CMタイトル別に再生回数を集計し、それをCM記録簿として管理する処理も行う。

【0028】====CMタイトルを出力するための構成と動作の概略====

<<<構成>>>図1における映像制御部16の具体的な構成を中心とした構成を図3に示す。映像制御部16は、スーパーインポーズ16a、ビデオデジタイザ（A-Dコンバータ）16b、縮小描出部16c、ビデオRAM16d、およびVSG（映像信号生成器としてのD-Aコンバータ）16eで構成される。ビデオCDプレーヤ17からの背景映像信号とビデオRAM13からの歌詞画像信号とがスーパーインポーズ16aで合成されてカラオケ映像がビデオデジタイザ16bに入力される。ビデオデジタイザ16bでデジタル化されたカラオケ映像を縮小描出部16cからビデオRAM16dにおける所定の領域に縮小転送する。この縮小の仕方は、後述する合成態様指定データに基づく中央処理装置4からの縮小設定の命令に従う。ビデオRAM16dでは、前述したCM番組に従ってカラオケ映像に合成してVSG16eに向けてデジタル出力する。この合成の仕方は後述する。VSG16eからはCM映像の合成されたカラオケ映像のアナログ信号がビデオディスプレイ15に向けて出力される。

【0029】<<<概略動作>>>リクエストされた楽曲の演奏処理に伴うCM再生の処理手順の要点を図4のフローチャートに示す。楽曲がリクエストされてカラオケ演奏処理プログラムが演奏準備を開始すると、CM処理プログラムはCM番組ベースの管理台帳におけるリンクデータ表と対照し、該当の楽曲に結びつけられているCMタイトルが存在するか否かを検索する（S10→S20）。CMタイトルが存在した場合は、演奏動作が開始されるまで待機する（S20→S30→S40）。このCM映像は、ビデオディスプレイ15に映し出されるカラオケ映像に合成される（S40→S50）。

【0030】このようなCM再生処理を担うプログラムは、各CMタイトル別に再生回数を集計し、それをCM記録簿に記入していく。そして、電話回線3を通じてホ

スト装置2と通信する適当な機会に、カラオケ装置1で作成したCM記録簿のデータをホスト装置2に送る。ホスト装置2は、通信カラオケシステムに含まれる多数のカラオケ装置1からCM記録簿データを集信し、それらを集約して各CMタイトルごとの利用回数を集計する。その集計結果に基づいて、各CMタイトルの広告主に請求する宣伝広告料金を算出できる。また、カラオケ装置1の設置店舗に対する宣伝広告実施の報酬を算出することもできる。

【0031】====宣伝映像番組の組み合わせの具体的な態様====

<<<宣伝映像番組を挿入する楽曲の指定>>>売り込みたい商品やサービスの各宣伝映像番組を楽曲に対応づけて割り当てておく。各宣伝映像番組の内容に応じ、これを好みそうな消費者層が選曲するだろうと特定の楽曲を推定する。この楽曲のIDを前述した管理台帳や図2のCM番組構造のように割り振る。一つの宣伝映像番組に複数の楽曲を割り当てても良い。割り当ての例を上げると、TVドラマの視聴率をアップさせるのが目的で次の予告映像を宣伝映像番組として用意する場合、この番組で利用されるテーマ曲を楽曲として指定する。また、あるファミリーレストランを宣伝したい場合には、レストランでの様子をテーマとした歌詞が歌われるカラオケ映像が用意された楽曲を指定する。

【0032】<<<宣伝映像番組を挿入するタイミングの指定>>>カラオケ映像の出力時に宣伝映像番組を合成するタイミングを合成時機指定データにおいて指定しておく。このデータは前述した図2に示すCM番組構造の挿入時機の項目において記述しておく。具体的なタイミングとしては合成の開始と終了の時機としている。このタイミングは、カラオケ演奏における前奏や間奏、後奏および曲間などである。楽曲の曲調に合わせ、挿入し易かったり、歌唱中のように聴衆の注目度が高いタイミングを選ぶ。つまり、宣伝内容に相応しい場面となるタイミングを適宜指定しておくことで効果的な宣伝を図る。

【0033】また、表示の時間帯が指定されている場合には、これに従って宣伝映像番組を再生表示する。例えばレストランの宣伝広告を表示する場合、同じ楽曲の同じ場面であっても、昼間はファミリーレストラン、夕方は高級レストラン、深夜にはお色気パブなど宣伝効果の高い時間帯を指定しておく。

【0034】<<<宣伝映像番組を合成する態様>>>宣伝映像番組をカラオケ映像に合成する態様は、前述した図2に示すCM番組構造の挿入態様の項目において記述しておく。この項目では、画面上のCM有効区域の図形寸法を指定する映像サイズと、挿入の開始および終了の時の円滑な合成を行うための映像エフェクトを指定できる。

【0035】カラオケ映像において歌詞が表示されてい

る時の宣伝映像番組の表示例を図5や図6に示す。歌詞画像が表示されている図5のものでは、鳥であるカラスを題材にした楽曲のカラオケ映像に対して宣伝字幕をスクロール表示する宣伝映像番組を合成している。帯状の宣伝映像領域を画面の上端部に一行分確保して右から左へ字幕をスクロールする(a)。加えてL字型の宣伝映像領域として右下から上端を經由して左端へ向かって字幕をスクロールする(b)。このような字幕の表示領域を確保するにあたり、本来のカラオケ映像を適切に上下方向や上下左右方向に縮小することで表示領域を設ける。縮小の仕方は指定された映像サイズに基づいて割り出す。

【0036】挿入の開始時点における宣伝映像を表示する領域の作成および宣伝映像の表示の仕方を説明する。映像エフェクトに従って表示領域を作成する。図5のように宣伝映像に文字が含まれている場合にはしっかり読みとれるように表示領域を確保してから字幕のスクロールを開始する。また、このように歌詞が表示されている場合は、徐々にカラオケ映像を縮小していくことで歌詞の読み取りになるべく支障がないようにする。歌詞画像の表示されていない場面(例えば間奏中)では、瞬間的にカラオケ映像から宣伝映像に画面全体を切り替えれば、切り替えのタイムロスをなくして宣伝映像番組の表示時間を多く取ることができる。あるいは図6(a)

(b)のように、映像エフェクトに従って宣伝映像を徐々に右から描出させながらカラオケ映像を縮小させていく(挿入時)。そして、宣伝映像を消去していくときにはカラオケ映像の縮尺を元に戻しながら宣伝映像をワイプアウトしていく。適宜幾種類もの映像エフェクトを用意しておけばカラオケ映像および宣伝映像番組の内容に応じて両者をうまく組み合わせることができる。

【0037】演奏終了後など歌詞画像の表示されていない場面では、カラオケ映像を全く出さずに画面一杯に宣伝映像を表示させてもよい。複数の宣伝広告を適宜分割画面で同時に表示できる。一方、演奏中における歌詞の表示されない間奏の期間において画面一杯に宣伝映像を表示するのは問題がある。それまで表示されていた背景画像が途切れるのはそれを鑑賞していた利用者に欲求不満を抱かせかねない。その対処として画面の表示領域を分割利用する。例えば上下で分割し、上の1/3を宣伝映像とするとともに下の2/3を縮小したカラオケ映像とする。上下方向だけの縮小では左右の違和感が気になる場合には上下左右均等に縮小することで残りのL字型の表示領域を宣伝映像番組用に利用する。この表示領域に合わせた変則的な宣伝映像番組を予め作成しておく。

【0038】====その他====

特定の楽曲と宣伝映像番組との対応づけの仕方は適宜設計変更できる。この対応付けは楽曲データベース側で管理してもよいし、CM番組ベース側で管理してもよい。

楽曲データベース側で管理する場合は各カラオケデータ

10

20

30

40

50

の管理情報で指定しもよいし、両者の対応表（管理台帳）を作成しておいても良い。CM番組ベース側で管理する場合も同様である。あるいは、両者の対応表を各データベースとは別個に独立して管理してもよい。また、特定の楽曲に対して宣伝映像番組、合成時機指定データ、合成態様指定データなどが対応づけられていてもよい。

【0039】

【発明の効果】カラオケ装置を宣伝広告媒体として効果的に活用する。カラオケ利用者の楽曲の嗜好性によって好みの商品やサービスなどを推定しておく。つまり、楽曲をキーにして宣伝対象となる消費者層の絞り込みを図る。売り込みたい商品やサービスを好みそうな消費者層を楽曲の嗜好性でもって切り分けし、その楽曲を選んだ消費者層に向けてその宣伝映像番組を表示する。多様な嗜好性によって切り分けられる各消費者層に合わせた効果的な宣伝を行うことができる。宣伝映像番組を表示する際には、合成時機指定データや合成態様指定データで合成表示の仕方を工夫することにより、カラオケ映像の邪魔にならないように宣伝できるとともに、カラオケ利用者が注目する場面を狙って効果的にCMを挿入できる。

【0040】合成態様指定データは前記カラオケ映像の縮小の形式を指定するので、縮小することで生じた画面の残りの領域に宣伝映像を表示でき、カラオケ映像が欠けることがない。該当の楽曲のカラオケ映像に合成すべき時間帯を指定した時間帯指定データを各タイトルの宣伝映像番組に対応づけておけば、宣伝の効果的な時間帯に宣伝映像番組を表示できる。適宜な通信回線を通じて外部から各タイトルの宣伝映像番組の供給を随時受けてデータベースを更新すれば、飽きのこない新鮮な宣伝映像番組をカラオケ利用者に提供でき、効果的な宣伝を行える。

【0041】各タイトルの宣伝映像番組別に前記カラオケ映像と組み合わせて表示すべく再生した回数を集計し、それを宣伝記録簿として管理しておき、外部のホスト装置などに通信で適宜報告する。このことで、ホスト装置側では、通信カラオケシステムに含まれる多数のカラオケ装置からCM記録簿データを集信し、それらを集約して各CMタイトルごとの利用回数を集計できる。その集計結果に基づいて、各CMタイトルの広告主に請求する宣伝広告料金を算出できる。また、カラオケ装置の

設置店舗に対する宣伝広告実施の報酬を算出することもできる。

【0042】そして楽曲、合成時機、合成態様、合成時間帯といった4つの特定要素を適宜組み合わせることで多様な要求に合わせた宣伝広告を行える。

【図面の簡単な説明】

【図1】この発明の一実施例によるカラオケ装置の概略構成図である。

【図2】同上実施例におけるCM番組の構造図である。

10 【図3】同上実施例のカラオケ装置における映像制御部16の具体的な構成を中心とした部分構成図である。

【図4】同上実施例におけるCM再生処理プログラムの要点を示すフローチャートである。

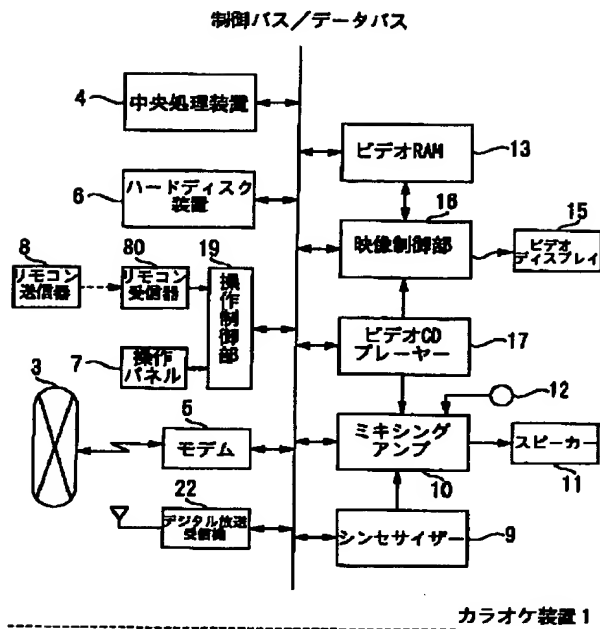
【図5】同上実施例における歌詞画像の表示中における宣伝映像の合成例を示す模式図である。

【図6】同上実施例における歌詞画像を表示しないときの宣伝映像の合成例を示す模式図である。

【符号の説明】

- | | |
|------|-----------|
| 1 | カラオケ装置 |
| 2 | ホスト装置 |
| 3 | 電話回線 |
| 4 | 中央処理装置 |
| 5 | モデム |
| 6 | ハードディスク装置 |
| 7 | 操作パネル |
| 8 | リモコン送信器 |
| 9 | シンセサイザー |
| 10 | ミキシングアンプ |
| 11 | スピーカー |
| 12 | マイク |
| 13 | ビデオRAM |
| 15 | ビデオディスプレイ |
| 16 | 映像制御部 |
| 16 a | スーパーインポーズ |
| 16 b | ビデオデジタイザ |
| 16 c | 縮小描出部 |
| 16 d | ビデオRAM |
| 16 e | VSG |
| 17 | ビデオCDプレーヤ |
| 19 | 操作制御部 |
| 80 | リモコン受信器 |

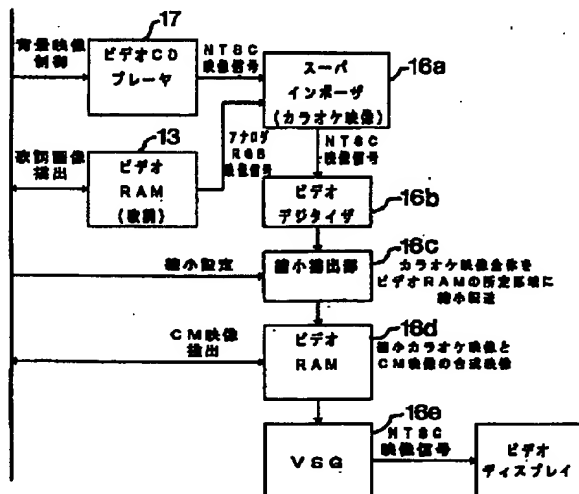
【図1】



【図3】

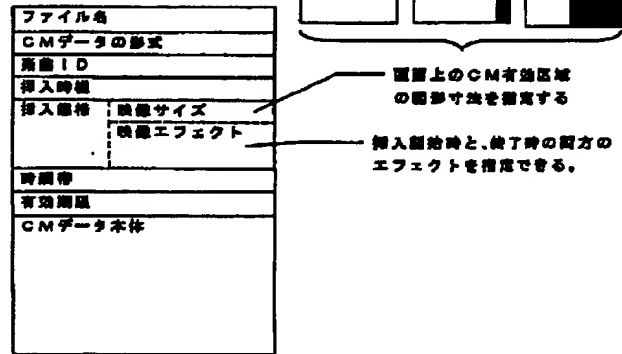
【機能ブロック図】

通信カラオケ演奏端末
制御バス/データバス

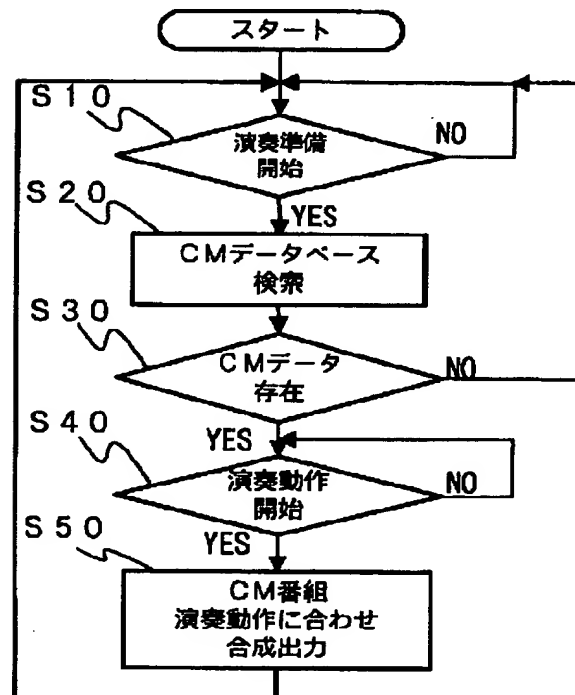


【図2】

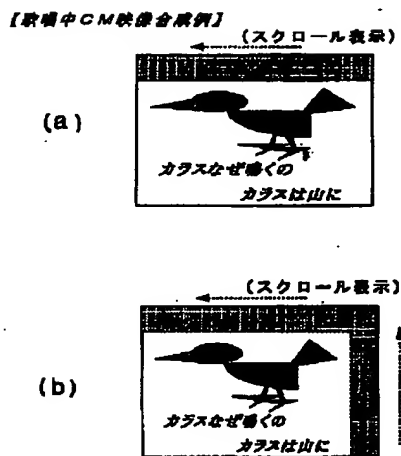
【CMデータ構造】



【図4】



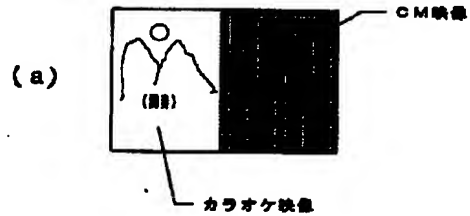
【図5】



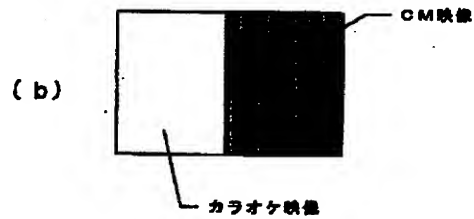
【図6】

【図6】

<挿入時>カラオケ画面を右側より徐々に縮小しながら、右半分を使って制作されたCM映像を縮小せずに合成表示する。



<離脱時>カラオケ映像の縮尺を元に戻しつつ、CM映像がワイプアウトする



フロントページの続き

(72)発明者 桜井 伸司
東京都品川区北品川5-5-26 株式会社
第一興商内

**This Page is Inserted by IFW Indexing and Scanning
Operations and is not part of the Official Record**

BEST AVAILABLE IMAGES

Defective images within this document are accurate representations of the original documents submitted by the applicant.

Defects in the images include but are not limited to the items checked:

☐ **BLACK BORDERS**

☐ **IMAGE CUT OFF AT TOP, BOTTOM OR SIDES**

☐ **FADED TEXT OR DRAWING**

☒ **BLURRED OR ILLEGIBLE TEXT OR DRAWING**

☐ **SKEWED/SLANTED IMAGES**

☒ **COLOR OR BLACK AND WHITE PHOTOGRAPHS**

☐ **GRAY SCALE DOCUMENTS**

☐ **LINES OR MARKS ON ORIGINAL DOCUMENT**

☐ **REFERENCE(S) OR EXHIBIT(S) SUBMITTED ARE POOR QUALITY**

☐ **OTHER: _____**

IMAGES ARE BEST AVAILABLE COPY.

As rescanning these documents will not correct the image problems checked, please do not report these problems to the IFW Image Problem Mailbox.